

R71027 落五小 朝礼講話⑭（副校長）

【児童への話】

今朝、6年生が日光移動教室へ出発しました。6年生がいない間は、特に5年生の皆さんが中心となって学校を支えてくださいね。期待していますよ。

さて、今日は校庭の芝生養生についてお話しします。

11月1日から30日までの間は、芝生の養生期間として立ち入ることができません。これは、芝がきちんと生長できるようにするためです。エアレーションと言って、小さい穴をたくさんあけて、空気がよく入るような作業をします。その後、冬用の種（寒さに強い芝の種類）をまきます。

芝生の種はだいたい3週間で発芽を終え、種まき後1ヶ月ほどで地中へと根付かせていきます。根付くまでの時期はとても不安定です。また、種にとっては乾燥が一番よくないため、表面が乾かないようにしっかりと水をやります。

芝生は時間の経過とともに、水はけが悪くなったり、病気やトラブルを起こりやすくなったりします。それを防ぐために、芝生の養生は必要になります。

養生期間は決して短くない為、早く入りたくなることもあるでしょうが、きれいに育った芝生を楽しみにして、養生期間中は校庭の芝生をみんなで見守りましょう。1ヶ月ほどの養生期間が終わり、芝生を利用できるようになっても終わりではありません。植物ですから末永く育てていくことが大切です。そして、心の隅にありがとうという気持ちをもちながら、たくさん遊んだり体育で動いたりしてくれるときと芝生もうれしく感じるのではないかと思います。

今日は芝生の話をしましたが、芝生以外にもみんなの身の回りのものを改めて観察したり調べたりすることはとても面白いし新しい発見があるかもしれません。皆さんも是非いろいろなものに興味をもってくださいね。

【本講話について】

11月いっぱい校庭の芝生養生期間のため、全面立ち入り禁止期間となります。「どうして養生期間が必要なのだろうか」、という視点から身の回りに当然のようにあるものに関心をもたせたいと考えました。様々な事柄が瞬く間に過ぎ、多くの情報で溢れかえる環境で過ごす児童に、たまには立ち止まってゆっくりと考えることの大切さを伝えるねらいで本講話を作成しました。